

## 第1学年2組 国語科学習指導案

日時 平成29年12月7日(木) 5校時

場所  
指導者  
学校司書

1 単元名 いろいろなおはなしをよもう 「おとうとねずみチロ」(東京書籍)

### 2 単元の目標

- ・いろいろな物語に興味をもち、楽しんで読むことができる。 【国語への関心・意欲・態度】
- ・人物の行動を中心に、場面の様子を人物の気持ちを想像しながら読み、人物の好きなところをみつ  
けて紹介することができる。 【読む】
- ・物語のおもしろかったところを伝えるのにふさわしい言葉を選んで、つながりのある文章を書くこ  
とができる。 【言語についての知識・理解・技能】

### 3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
○いろいろな物語に興味をもち、楽しんで読もうとしている。	○人物の行動を中心に、場面の様子を想像しながら読んでいる。 ○物語を読んでおもしろかったところをおはなしカードに書いてまとめている。 ○さまざまな物語の中から、興味のあるものを選んで読んでいる。	○物語のおもしろかったところを伝えるのにふさわしい言葉を選んで、つながりのある文章を書いている。

### 4 学習の基盤

#### (1) 教材について

本単元は、様子を思いうかべながら物語を読む力をつけるとともに、いろいろな物語へと読み広げていくことで、楽しんで読書しようとする態度を育てることをねらいとしている。

重点指導事項は、C読む(1)カ「楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」である。

教材文『おとうとねずみチロ』は、主人公チロの行動や会話に気持ちの変化が素直に表れていて、様子を想像しながら読むのにふさわしい物語である。この時期の1年生は、学校生活にも慣れ、自

分たちでできることは自分たちでしようとする気持ちも強くなっている。物語に出てくる幼いチロが自力で問題を解決しようとする姿は、1年生に近い存在として共感をよぶであろう。登場人物と自分を重ね合わせて読むという物語の味わい方を知り、もっといろいろな物語を読みたいという思いを引き出したいと考え、本単元を設定した。

### (3) 指導について

本単元では、登場人物の行動や様子、その時の気持ちを考えながらお話を読む力をつけていきたい。そして、そのような読み方をしていくことで、楽しんで読書しようとする態度を育てていきたい。そのために、本単元を貫く言語活動として、本を選んで、登場人物の好きなところを紹介する「おはなしカード」を書き、「おはなしポケット」に集めていく活動を設定する。担任・学校司書・司書教諭の3人で協力し「おはなしカード」や「おはなしポケット」を作ったり、並行読書の用意を進めたりしていく。児童が学習活動に意欲的かつ主体的に取り組めるような学習環境を整えていくようにする。

指導に当たっては、まず、気に入った本の「題名」「好きな登場人物」「好きなところ」「おもったこと」を「おはなしカード」に書いて「おはなしポケット」に集め、紹介していくことを提案する。学習のゴールを具体的にイメージすることで、人物の好きなところを友達に紹介するという目的意識をもつことができるようにしたい。

お話の好きなところを見つけるための視点を明確にするため、教材文「おとうとねずみチロ」の読み取りを行う。場面ごとに、登場人物、特にチロが取った行動や会話文に気をつけて読み、その時の気持ちなどを想像しながら読んでいけるようにする。丁寧に読み取りを行ったうえで、チロの好きなところをおはなしカードに書き、おはなしポケットを作ることで、他の本も紹介したいという意欲を引き出したい。

教材の読み取りから個人の活動へとつなぐための時間として、グループ読書を行う。並行読書として読んでいた本とは別にグループ読書のための本を学校司書が選書、紹介し、読みたい本を選ぶ。同じ本を読みたい人4、5人でグループ読書を行い、読んだ本について「おはなしカード」および「おはなしポケット」を作る。グループで好きなところを紹介しあうことで、自分の読みを深めたり、読む人によって感じ方が違うことを実感したりすることができるようにしたい。

そして、単元の最後に、これまで並行読書として読んできた本の中から自分が紹介したい本を選び、好きなところをみつけて「おはなしカード」を書き、紹介する。

本時は、それぞれがみつけた好きな登場人物について、グループの中で紹介しあい、「おはなしカード」に書いてまとめる場面である。全員が「おはなしカード」に登場人物の好きなところについて自分の思いを明確にしながらかけるようにしたい。そのために、本の中でみつけた登場人物の好きなところを、感想も含めながら自分なりの言葉で説明する場面を設定する。導入では、他のグループの人達を読みたくなるような「おはなしカード」を書くために、グループで登場人物の好きなところを紹介しあうことを示し、本時の見通しを持たせる。その際、チロの読み取りで作った「おはなしポケ

ット」及び、これから「おはなしカード」を入れていくグループごとの「おはなしポケット」を提示し、学習への意欲を引き出したい。話合いにスムーズに入れるよう、担任と司書教諭、学校司書で話し合いのやり方を実演してみせる。ここで感想の述べ方や反応の返し方などについて具体的な言葉を示しておくことで、児童の読みが深まるような話合い活動ができるようにしたい。紹介しあうことで、自分の中の読みを深めたり、新たな目線でお話の読みを広げたりし、「おはなしカード」に表せるようにする。

### <読書活動に意欲的に取り組むための工夫>

#### 学校図書館の活用

本單元では、学校図書館の読書センターとしての機能に重点をおいて指導をしていくため、「いろいろなお話を読んで、好きな人物をしょうかいしよう」という活動を設定する。ブックトークを設定し、テーマやジャンルを厳密に固定せずできるだけ幅広く本を紹介していきたい。人物が明確であり行動に着目しながら楽しんで読める本をそろえておくことで、並行読書を行う際に子ども達が主体的に本を選び楽しんで読むことができると考えている。

単元を通して行う言語活動として、自分が読んで面白かった本を「おはなしカード」を使って紹介する活動を行う。本の題名、好きな登場人物（絵）、すきなところが書ける形式のものを司書教諭が用意する。導入時に「おはなしカード」についての説明を司書教諭が行う。書き方だけではなく、「おはなしカード」を書いて自分の読んだ本を紹介したいという意欲をもたせるようにする。

また、本單元では、グループ読書を取り入れる。子どもの実態に合わせ読書ができるように、学校司書や担任とも連携しながらグループ読書にふさわしい本をいくつか用意しておく。グループ読書の本を選ぶ際には、個々の読み取りの能力に合わせた内容であったり、場面ごとにおもしろさを感じられたりと多様な意見が出やすいと思われるお話を選ぶようにする。また、グループで同じ本を同時に読むことになるので複数冊用意できる本が必要になる。グループ読書の際には、担任、司書教諭、学校司書で読むことが難しいグループに入り、どのグループもお話の内容をしっかりと理解して「おはなしカード」を書くことができるよう、教員が読んで手本を示したり一緒に読んだりという支援もしていく。

この活動を通して、グループ読書の楽しさを味わったり、本を紹介し合うことで読書の幅を広げたりしていきたい。

### <考えを発表し合う場面の工夫>

本單元では、グループ読書の時間を設定している。同じ本を読んできたグループの中で自分がみつけた好きな登場人物を紹介しあうことで、同じ物語でも読む人によって感じ方が変わってくることをより実感できるようにしたい。また、自分の考えを深め自信をもって「おはなしカード」に書くことができるようにする。それまで何となく好きなどを決めていた児童も、友達の意見を聞いて自分の思いを明確にしたり、再考したりすることができると思う。

5 単元の指導計画と評価規準（全時間 本時 12 / 17 時間）

時	主な学習活動と内容	○教師の指導・支援 ◇学校図書館との関わり	評価規準と評価方法
1 2	○学習の見通しを立てる。 ○いろいろなお話を読んで、人物の好きなどころを見つけカードに書いて紹介するという学習課題を確かめる。 ○教材文を通読して、初発の感想を発表する。	◇教師の作成した「おはなしカード」を見せ、「おはなしカード」を作る学習に見通しがもてるようにする。 ◇並行読書用の本を紹介し、読書記録カードの書き方を説明する。	○学習の見通しをもち、進んで物語を読もうとしている。【関】（行動観察・発言）
3	○手紙が届いた時のチロの様子を想像しながら読む。	○おばあちゃんから手紙が届いた時のチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像させる。	○人物がしたことを思い浮かべ、その時の様子や気持ちを考えながら読んでいる。
4	○チロのチョッキはないと言われて不安に思うチロの様子を想像しながら読む。	○チロのチョッキはないと言われた時のチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像させる。	【読む】（発言・ワークシート）
5	○「いいこと」を思いついた時のチロの様子を想像しながら読む。好きなどころを見つける。 ○並行して読んでいる本について交流。	○「いいこと」を思いつき、それを実行していくチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像させる。	
6	○おばあちゃんに呼びかけた時のチロの様子を想像しながら読む。 ○好きなどころを見つける。	○おばあちゃんに呼びかけた時のチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像させる。	
7	○チョッキが届いた時のチロの様子を想像しながら読む。 ○好きなどころを見つける。	○チョッキを見た時のチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像させる。	
8	○おばあちゃんにお礼を言う時のチロの様子を想像しながら読むことができる。 ○好きなどころを見つける。	○おばあちゃんにお礼を言う時のチロの行動や会話に着目し、様子や気持ちを想像させる。	○人物がしたことを思い浮かべ、その時の様子や気持ちを考えながら読んでいる。 【読む】（発言・ワークシート）

9	○教材文について、おもしろかったところを人物に着目し、紹介してから「おはなしカード」を書く。	○最も好きなお話を選んで、「好きなお話」と「好きなところ」を書かせる。 ◇「おはなしカード」の書き方を説明する。	○お話を読んで好きな人物やおもしろかったところを紹介して、人物の好きなところなどをカードにまとめて書いている。 【読む】(発言・おはなしカード)
10 11	○紹介したい本を選んで、グループ読書を行う。好きな人物や好きなところを決め、ふせんをはる。好きなところで思ったことをふせんに書く。	○同じ本を選んだ人でグループを作る。児童の実態に合った本になるよう声かけをして選ばせる。 ◇グループ読書の本を紹介する。(ブックトーク)	○いろいろな本を読み、友達に紹介するための本を選んでいる。 【読む】(行動観察・発言) ○好きな人物の好きなところを選んでいる。 【読む】(ふせん)
12 本時	○本にはったふせんをもとに人物の好きなところや思ったことをグループの友達と紹介し合い、「おはなしカード」に書く。	○自分の好きなところと比べながら友達の感想を聞いたり伝え合ったりさせる。 ◇お手本を見せ、好きなところの紹介の仕方を伝える。 ◇「おはなしカード」の書き方を説明する。	○ふせんをもとに人物の好きなところや思ったことを伝え合うことで想像を広げたり深めたりしている。 【読む】(発言・行動観察・おはなしカード)
13 14 15	○読みたいお話を読んで読み、おもしろかったところを「おはなしカード」に書く。	○読書記録カードに読んだ本を記録させ、その記録をもとに「おはなしカード」を書かせる。	○いろいろな本を読み、友達に紹介するための本を選んでカードを書いている。 【読む】(おはなしカード)
16 17	○「おはなしカード」を使って、物語の中の好きな人物や好きなところを紹介する。(学級・他学年)	○「おはなしカード」をもとに好きな人物や好きなところを紹介したり感想を伝え合ったりさせる。	○いろいろな物語を読んでそのおもしろさを知り、これからも読書を楽しもうとしている。 【関】(発言)

## 6 本時の学習指導

- (1) 目標 登場人物の好きなところを友達と紹介し合うことを通して、好きなところや感想を「おはなしカード」に書くことができる。

(2) 展開

時間	主な学習活動と 予想される児童の反応	教師の支援 (○担任, ◇司書教諭, □学校司書)	評価
5分	<p>1 本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すきなところをおはなしカードに書きたいな。</li> <li>・他のみんなはどこが好きなんだろう。</li> <li>・自分のすきなところを紹介したいな。</li> </ul>	<p>○前時でみつけた好きなところについて「おはなしカード」に書いてまとめていくことを示し、見通しを持たせる。</p> <p>○教材文で作ったおはなしポケットや、これからグループでカードを入れていく「おはなしポケット」を提示しておき、学習への意欲を引き出す。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             どうしようじんぶつの すきなところを しょうかいしあおう。           </div>			
20分	<p>2 すきなところを紹介する。</p> <p>(1) 前時でみつけた好きなところを紹介しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じところが好きだったよ。</li> <li>・私とは違うところが好きなんだな。</li> <li>・同じところが好きだけど、思ったことが違うよ。</li> </ul> <p>(2) グループで紹介し合った</p>	<p>○友達の記事を聞いて、考えを変えてもよいことを伝えておく。</p> <p>○◇□話し合いがスムーズに進むように、お手本を見せる。</p> <p>○読んだ本を手元に置いておき、紹介する際にみんなで場面を確認しながら進められるようにする。</p> <p>◇各グループに、思ったことを伝えるための言葉をいくつか提示しておき、それを参考にしながら感想を述べたり、カードに書いたりできるようにする。</p> <p>□前時で読み取りが難しかった児童につき、一緒に本を読んだりしながら発表できるようにする。</p> <p>○各グループに「きくきくボード」を置いておき、友達の記事に対して自分の考えを表せるようにする。</p> <p>○感想を発表させることで自分の考えを</p>	<p>☆進んで友達に好きなところを紹介したり、自分の考えと比べながら聴いたりしようとしている。</p> <p>(発言・行動観察)</p>

	感想を発表する。	明確にし「おはなしカード」が書けるようにする。	
15分	3 「おはなしカード」を書く。 ・やっぱりここを紹介したいな。 ・〇〇さんと同じだったところにしよう。 ・思ったことを書くのが難しいな。 ・「どきどきした」という言葉を使うといいかもしれないな。	○◇「おはなしカード」に書くところが明確になっていない児童がいれば、前時とは違う色の付箋を配布し、特に紹介したい好きなところに貼るよう促す。 ○感想を書くのが難しい児童には、本を示しながら一緒に考えたり、語彙表中の言葉や友達の発表を聞いていいなと思っただけの言葉などを使うよう声掛けをしたりする。	☆紹介しあったことをもとに、読みを深めたり広げたりしながら、登場人物の好きなどころについて「おはなしカード」に書いている。 (おはなしカード・行動観察)
5分	4 本時のまとめをする。	○児童が書いた「おはなしカード」をいくつか取り上げ価値づけることで、他の本も読んでみたいという思いを引き出したり、これからの活動への意欲づけを図ったりし、次時の学習につなげる。	

### (3) 評価

評価目標	十分満足できると判断される児童の姿	おおむね満足できると判断される児童の姿	支援を要する児童への指導の手立て
登場人物の好きなどころを感想も踏まえながら伝え、「おはなしカード」に書くことができる。	登場人物の好きなどころについて感想を自分の言葉で伝え、「おはなしカード」に書いている。	登場人物の好きなどころについて語彙表を用いて感想を伝え、「おはなしカード」に書いている。	感想を言うのが難しい児童には、話型や語彙表を示し、ふさわしい言葉を選んで伝えられるようにする。 好きなどころを「おはなしカード」に書くのが難しい児童には個別につき、一緒に本を読んだり、語彙表を示したりしながら一緒に考える。

### (4) 研究の視点

- ・グループ読書をし、感想を伝え合うことは、読書の楽しさを味わったり、「おはなしカード」を書いて紹介したいという思いを高めたりするために有効であったか。